

※グラフ内の数字は、生徒の肯定的意見を%で示しています。

《上記のアンケート結果についての考察と今後の取り組みについて》

『授業がわかる』成果指標85%

前期は成果指標を上回ることができました。後期は学習内容の難化等もあり、1・2年生は成果指標を下回る結果でしたが、8割の生徒が授業を理解しています。

授業では、次のような取組を行っています。

- 教科書に加え、資料集や電子黒板、タブレットなどを活用し、情報取得できる。
- チームティーチングや支援員との連携をとり、支援や助言を行う。
- 学習内容を振り返るなど復習しながら授業展開を工夫する。

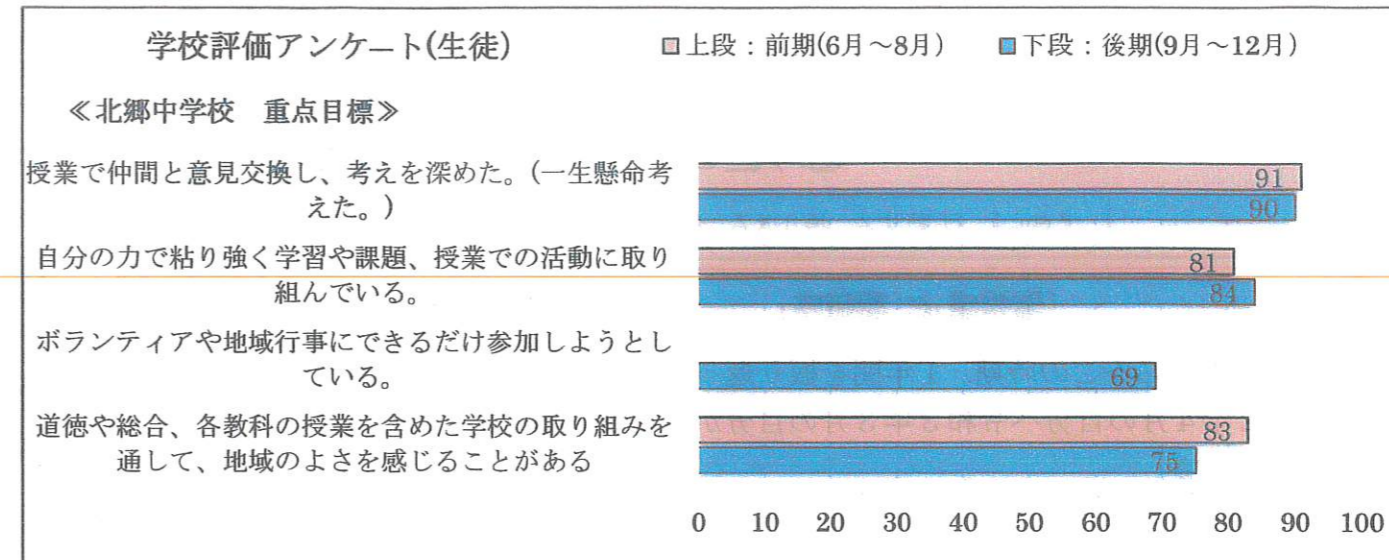
来年度も生徒にとって魅力的であり、興味関心を持てる授業を教師が継続して展開していく必要があります。より一層どの生徒にも寄り添い「わかる」授業を行っています。また、生徒同士の関わり合いによって理解を深め、自分の考えを持たたと実感を得られるように取り組んでいます。

『学校が楽しいと感じている』成果指標90%

前期、後期ともに8割の生徒が肯定的な意見を挙げています。しかし、成果指標の90%を達成することができませんでした。今年度は、コロナウイルス感染防止のために様々な活動が制限されていることもあり、生徒が自分たちで取り組み、成果を実感できる経験が少なかったことも原因として考えられますが、まずは、学校生活の軸である授業が「わかる」、「楽しい」という実感を持てるように授業改善を行っています。合わせて学校教育全体を通して、生徒自身が行事や様々な活動に自分から取り組み、達成感を味わえるような取組を支援する体制を来年度は再考していきます。

『信頼できる先生がいる』と感じている

生徒・保護者・地域から「信頼される学校」づくりの観点では、教師が授業力の向上を図り、魅力ある授業を実践することが信頼につながり、ひいては生徒、保護者、地域から信頼される「学校」になると考えます。また、より開かれた学校づくりを具体的に教育課程に反映し、地域の方とともに活動を行う中で生まれる信頼関係の構築や様々な場面で自分の考えを伝えたり思いを持って人と協働したりできる北郷中生となるよう取り組んでいきます。今後、地域に愛される学校として、生徒同士、生徒と教師、保護者と教職員の盤石な人間関係づくりを基盤とし、学校と地域の連携を図ってまいります。



※各項目のグラフ内の数字は、生徒の肯定的意見を%で示しています。

重点目標「自ら粘り強く学ぶ生徒」を育成

本年度の研修のテーマとして、「違い」を生かした関わり合いを通じて、考えや理解の深まりを実感できる授業づくりを行い、学びを深める生徒を目指してきました。

「授業で仲間と意見交換し、考えを深めた(一生懸命考えた)」成果指標90%

前後期ともに成果指標に達することができました。人の話をしっかりと聞くことができる生徒が多く、これまで継続して行ってきたアクティブラーニングや話し合い活動が定着している生徒が多いです。

「自分の力で粘り強く学習や課題、授業での活動に取り組んでいる。」成果指標80%

前後期ともに成果指標を上回る結果となり、後期の方が取り組みが充実していると実感している生徒が増加しています。

重点目標「地域で存在感を発揮できる生徒」の育成

ボランティアや地域行事にできるだけ参加しようとしている。成果指標85%

前期間は、ボランティアの募集がなかったり、行事の中止があったりしたため、アンケートを行いませんでした。後期は少しずつ活動が行われてきたため、アンケートを行いました。成果指標に達することができませんでした。しかし、「困った人がいたら手助けする気持ちを持っている。」という項目では、9割の生徒が肯定的な意見でした。生徒の思いやりの心を様々な場面で発揮できるよう取り組んでいきます。

生徒が地域行事に参加する機会が減少している今、何ができるのかを考えるいい機会ととらえ、キャリア教育として各学年が行う防災教育(1年)・職場体験(2年)・地域への提言(3年)を通して、生徒の自主的活動から、地域の子どもからお年寄りまで、人々のつながりを大切にしたい持続可能な教育活動を展開します。

上記の生徒の実態を受けて、来年度は、さらに生徒主体の考えを軸にして、「自ら」学びや課題に向かう姿勢や「自ら」判断し、正しい行動をとることのできる生徒の育成を目指します。研修では、「防災・道徳・総合」をキーワードとしてキャリア教育を推進していきます。地域と自分のとの関係を受容から能動に転換することを目指し、主体的に生徒がアウトプットしようとする積極的な姿勢づくりに重点を置いていきます。